



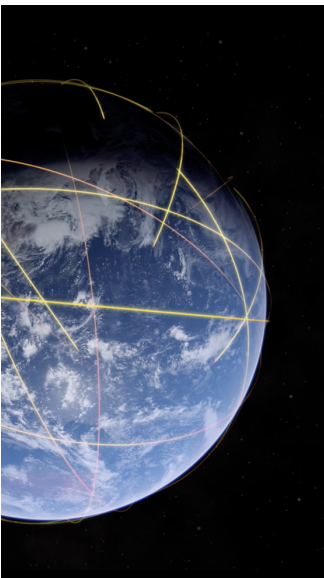
<報道関係各位>

2023年3月吉日
株式会社QPS研究所

QPS 研究所、10 億円の追加資金調達を実施 累積調達額は約 92 億円へ

世界トップレベルの小型 SAR^{*1} 衛星の開発・運用を行う株式会社 QPS 研究所（本社：福岡市中央区、代表取締役社長 CEO：大西俊輔、以下 QPS 研究所）は、スカパー-J S A T 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役執行役員社長：米倉英一）、日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：新屋浩明）、三井住友海上キャピタル株式会社（本社：東京都中央区、取締役社長：石上壽一）が運営する MSIVC2021V 投資事業有限責任組合、NAMU 株式会社（本社：東京都墨田区、代表取締役：永田 暁彦）と株式会社アイビス・キャピタル・パートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：中條 喜一郎）が共同運営するリアルテックグロースファンド 1 号投資事業有限責任組合の計 4 社を引受先とする総額約 10 億円の第三者割当増資を実施いたしました。これまでに調達した資金調達の累計総額は約 92 億円となりましたのでお知らせいたします。

■資金調達の背景及び目的



QPS 研究所は従来の SAR 衛星の 20 分の 1 の質量、100 分の 1 のコストで 100 kg 台の高精細小型 SAR 衛星「QPS-SAR」の開発に成功し、現在は 2 機の衛星を運用。夜間や天候不良時でも高分解能・高画質で観測できる SAR 画像を提供しています。2021 年 5 月には QPS-SAR 2 号機「イザナミ」による 70cm 分解能という日本の民間 SAR 衛星として最高精細の画像取得に成功し、衛星データビジネスの構築に向けて活動を本格化させました。今後は衛星を毎年複数機打ち上げ、2025 年以降を目標に 36 機の小型 SAR 衛星のコンステレーション^{*2}を構築し、平均 10 分ごとの準リアルタイム地上観測データサービスの提供を目指しています。

このプロジェクトの早期実現に向け、2021 年 12 月、2022 年 2 月にシリーズ B 資金調達に至りました。その後の 2022 年 10 月に打上げた QPS-SAR 3、4 号機はロケットの失敗により失いましたが、5、6 号機の打上げを間近に控え、この度、コンステレーション構築に向けてより積極的な衛星打上げプラン実施を目的に資金調達を実施。今回調達した資金は、衛星の大量生産体制を整えるための新工場の増設、そして 8 号機以降の開発・運用のために使用する予定です。

■シリーズ B ラウンドについて

2021 年 12 月 ファーストクローズ / 公式サイト URL：<https://i-qps.net/news/652>

2022 年 2 月 セカンドクローズ / 公式サイト URL：<https://i-qps.net/news/704>

(※1) SAR（合成開口レーダー）：電波を使用して地表の画像を得るレーダー。雲や噴煙を透過し、昼夜を問わず観測することができる点が特長です。

(※2) 複数の人工衛星によって、高頻度な地球観測を可能とするシステム。（コンステレーションは「星座」の意。）

プレス関係の方のお問い合わせ先
株式会社QPS研究所 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 6階
担当名：有吉 Email: y.ariyoshi@i-qps.com